

## 幼児期の子どものけがと応急処置

著者	渡部 真奈美
雑誌名	NICかわらばん
巻	249
発行年	2006-10-07
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10631/738">http://hdl.handle.net/10631/738</a>

# 看護大通信

25



新潟県立看護大学

講師 (小児看護学)

渡部 真奈美

「行楽の秋」、「スポーツの秋」など、天候も安定しているこの時期には、運動会や旅行など戸外で活動する機会も多くなります。特に小さなお子さまをお持ちの方々にとっては、突然のけがや事故に対して、どのようにしたらよいのか困った経験を持たれた方もいらっしゃるのではないのでしょうか？

ここでは、幼稚園や保育園などで起こりやすい事故と、その応急処置についてお話をしたいと思います。

## 幼児期の子どものけがと応急処置

ひとくちに「けが」といっても種類があり、その程度も軽症から重症までさまざまです。園庭で転んですりむいてしまうけが(擦過傷)は比較的多くみられます。擦過傷の大部分は、砂やほこりが付着しているので、水道水

で水滴を拭き取ってください。消毒が完全ではないところにそのまま絆創膏を貼ったり、軟膏などを塗ったりすると、逆に細菌を繁殖させてしまい逆効果です。

また、樹木が多い場所では、枝で手を切ったり、傷ができたり、とげが刺さったりするけが多いです。切り傷のときはそ

鼻血もよく起こりやすいですから、普段から子どもにも自分でできることを教えておきましょう。鼻血が出たら、鼻をつまむ、ティッシュで押さえる、下を向く。とにかく鼻をつまんでしばらくすれば、だんだんとまります。

いざというときにもあわてないよう、簡単な応急処置の方法を理解しておくことは大切です。しかし、出血が多い、傷口が大きいなど、症状によっては医療機関を受診して適切な治療を受けるようにしましょう。

でよく洗い流すことが大切です。大きな砂や破片が入っている時は、水を強くかけてください。擦過傷から出血があると、すぐに包帯をしたくなりますが、洗浄を第一にこころがけ、そのまま乾燥させるか、消毒用ガーゼ

の部位を圧迫して止血をしますが、その折、綿やティッシュなどを用いると、繊維が残る傷口を化膿させてしまうこともあり、ますので気をつけてください。



「あわてず、あせらず、応急処置」